

2 油圧ジャッキの使い方

油圧ジャッキは、地震等の災害時に建物等に閉じ込められた人を安全な場所に救出するため、がれき等を持ち上げるのに有効です。ボールよりも重い物を持ち上げることができますが、設置するには一定のスペースが必要です。すき間が狭く、設置が困難な場合は、ボール等によりすき間を広げてから使用します。



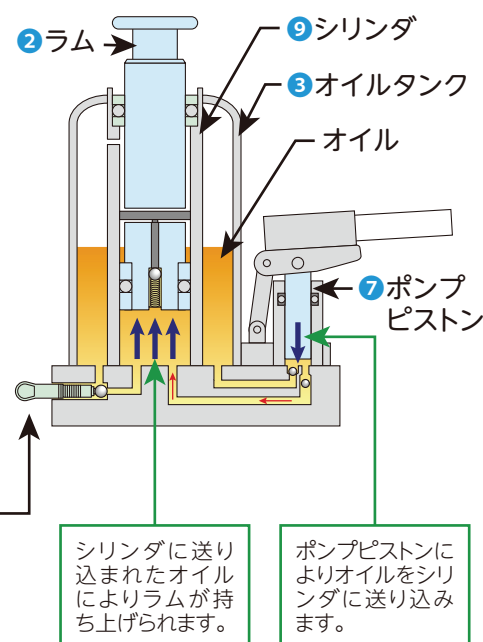
MOVIE



1 各部の名称



■内部イメージ図



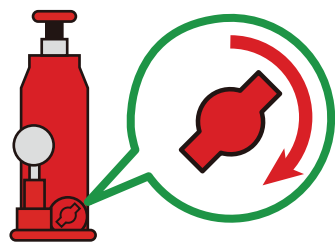
	各部の名称	各部説明
1	受金部(補助ねじ) うけがねぶ	重量物の中心に垂直に当て、重量物を持ち上げます。
2	ラム	ポンプピストンにより、オイル(作動油)がシリンダ内に送り込まれてこの部分が上昇し重量物が持ち上げられます。
3	オイルタンク	オイルを入れる容器部分です。
4	空気抜き栓(給油口)	オイルタンクの空気抜きと給油を行うために使用します。
5	操作レバー	レバーソケットに差し込み、ポンプピストンを操作するために使用します。
6	レバーソケット	操作レバーを差し込む部分です。
7	ポンプピストン	オイルをシリンダ内に送り込むために使用します。
8	リリーススクリュー(圧抜き弁)	オイルタンクとシリンダのオイルの通路(配管)を開閉するために使用します。
9	シリンダ	ラムを持ち上げるオイルを内部に納める円筒状の部分です。

2 操作の流れ

ここでは、油圧ジャッキを設置するスペースがある現場において、ジャッキで重量物を持ち上げて挟まれている人を救出するという想定で操作の流れを確認します。

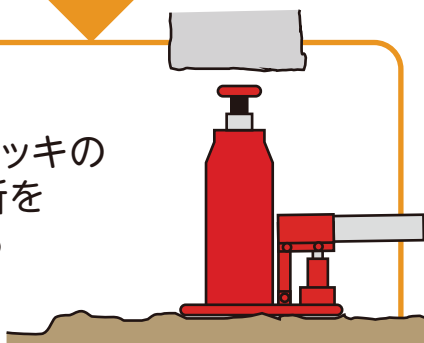
事前準備

- ① バルブを閉める



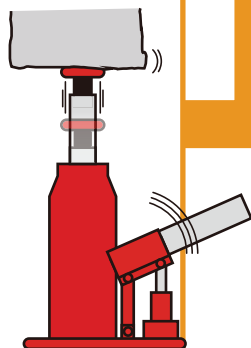
設置

- ② 油圧ジャッキの設置場所を選定する



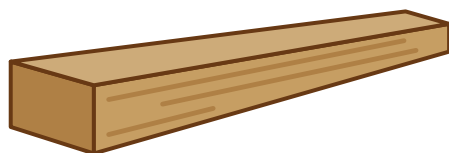
ジャッキアップ (重量物持ち上げ)

- ③ 重量物に当たるまでポンプピストンによりラムを伸ばしていく
- ④ ゆっくりとラムを伸ばして重量物を持ち上げていく



安全対策

- ⑤ 重量物を持ち上げ、すき間を角材などにより確保する



救出

- ⑥ 安全な場所に搬送する



3 油圧ジャッキの操作手順



- ① リリーススクリューを回し、バルブを閉める

- バルブを閉めるには、リリーススクリューを時計回りに回します。

MOVIE





② ジャッキアップポイント (油圧ジャッキを置いて、重量物を持ち上げる場所)を選定する

- 地面が平らな場所に置きましょう。
- 重量物に閉じ込められた(挟まれた)人の周囲の安全を確認しながら近づきましょう。
- 閉じ込められた人の意識状態やけが、挟まれ状況などを確認しましょう。
- 安全管理者は、常に油圧ジャッキの操作者や閉じ込められた人、周囲の状況に気を配りましょう。
- すき間が狭く、ジャッキが入らない場合は、ボール等を使用して、てこの原理ですき間を広げてから油圧ジャッキを設置しましょう。

MOVIE



③ 油圧ジャッキの受金部が重量物に当たるまでポンプピストンによりラムを伸ばしていく

- 重量物に当たれば、いったん動作を止めましょう。

MOVIE



④ ゆっくりとラムを伸ばして重量物を持ち上げていく

- 重量物が持ち上がるので、全体のバランスを確認しましょう。
- 重量物を持ち上げ、閉じ込められた人とのすき間を広げる際には、閉じ込められている人が痛みを伴っていないかを確認しながら行いましょう。

MOVIE



⑤ 重量物を持ち上げ、すき間ができるたびに角材などを入れる

- すき間に角材を入れることにより、重量物が下がらないように安全対策を行います。

MOVIE



⑥ 安全な場所に搬送する

- 搬送方法は「第5 搬送法・ファーストエイド」を参照してください。